

○若手研究者部門

(五十音順)

受賞者	表彰の内容
<p>徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 講師</p> <p>あさ だ ちか こ 浅田元子</p>	<p>バイオエタノール生産の実用化のための新規糖化酵素の低コスト生産技術の構築について研究を行い、生物工学分野のみならず環境工学分野でも高い評価を受けました。また、本県の林業プロジェクトにも関わり、この研究により、新規産業の創出や、農林水産バイオマスを用いる他の工業分野への応用も期待されます。</p>
<p>徳島大学藤井節郎記念医科学センター 助教</p> <p>たけ もと たつ や 竹本龍也</p>	<p>ヒトの遺伝子疾患を再現できる「遺伝子改変マウス」の簡便な作製法を確立しました。これにより高い技術と時間、費用を要していた遺伝子改変マウス作製の効率を飛躍的に向上させることに成功しました。今後の医学、生物学分野の研究を加速させる成果であり、家畜等への応用など更なる発展が期待されます。</p>
<p>徳島文理大学薬学部 准教授</p> <p>どうの うえ み わ 堂上美和</p>	<p>神経変性疾患の予防・治療薬の候補化合物を天然物から探したず研究に従事し、様々な植物から数多くの有用な化学成分を発見。特に、シキミ科植物やインドネシア産ショウガに神経細胞を賦活化させる成分が多く含まれていることを発見し、アルツハイマー病予防食材としての可能性を見だし、国内外で高い評価を受けました。</p>

○創意工夫部門

(五十音順)

受賞者	表彰の内容
<p>東光株式会社 生産部生産加工課技術保全班</p> <p>ふく なが ひろ のり 福永浩典</p>	<p>社内QCサークルにおいて、年間平均14件の改善提案を行い、生産過程の見直し・改善を行った結果、平成23年度に「改善エキスパート」に認定されました。さらに、認定後も社内の業務改善や後進の育成に尽力するのみならず、県全体の改善活動推進に力を発揮しました。</p>
<p>吉崎木製工業株式会社 代表取締役</p> <p>よし ざき じゅん じ 吉崎準二</p>	<p>建具家具製造に加え、新たにスピーカー製造事業を立ち上げ、コンパクトで洗練されたデザインのミニスピーカーを開発。木本来の温感を保ちつつ、継ぎ目のわからない組み方、サイズからは想像できない大音量化を実現するなどの高い技術だけではなく、徳島県産材の杉や檜、藍やLEDなど、徳島県ならではの地域資源を取り入れた製品が国内外で高く評価されています。</p>

○こども科学者部門

(年代順および五十音順)

受賞者	表彰の内容
<p>下名小学校 6年生</p> <p>しも かわ ひろ む 下 川 宏 武</p>	<p>本田技研工業が開催する「第12回子どもアイデアコンテスト」の高学年の部において最優秀賞を受賞。発想力、思考力、判断力、表現力が試されるこのコンテストで、受賞者が応募した「徳島鳴門わかめ型スクリュー搭載川底発電機」が、全国応募総数915点の中から最も優れたアイデアだと認められました。</p>
<p>坂野中学校 ロボット製作同好会</p>	<p>昨年度行われた「第15回創造アイデアロボットコンテスト」において、所属する島田・澤田ペアが中国・四国地区大会で優勝し、全国大会への切符を手にする、全国大会でも優勝。さらにそのロボットの優れた性能を評価され、厚生労働大臣賞も受賞しました。</p>
<p>鳴門教育大学附属中学校 科学の甲子園ジュニア 全国大会出場チーム</p>	<p>理数系の学力や思考力、技能、チームワークを競う、科学の甲子園ジュニア大会において、2年連続で徳島県大会で優勝し、全国大会でも2年連続「優良賞」を受賞しました。</p>
<p>徳島科学技術高等学校 海洋技術類 海洋総合コース 機能性食品開発班</p>	<p>「鳴門わかめ」に着目し、この未利用部位である「メカブ」の有効性や機能性を研究。その結果、有効成分の微粉末化に成功し、四国地区水産・海洋高校生徒研究発表大会において最優秀賞を受賞し、全国水産海洋高等学校生徒研究発表大会では奨励賞を受賞しました。</p>
<p>脇町高等学校 3年生</p> <p>よし い たつ や 吉 井 達 也</p>	<p>自作の検波器を使い「BSアンテナを利用した太陽温度の測定」というテーマで研究に取り組み、「日本学生科学賞」徳島県審査と「徳島県SSH生徒研究合同発表会」でともに最優秀賞を受賞しました。</p>

○科学技術理解増進部門

(五十音順)

受賞者	表彰の内容
<p>阿南高専中学生ロボット競技会 実行委員会</p>	<p>平成14年の初開催から今年で14回目をむかえ、当初は阿南高専の一日体験入学に合わせて校内で開催。その後、会場をとくぎんトモニプラザやシックセンターに移し、多くの方にロボットにふれあう機会を創出。会場ではNHK高専ロボットコンテスト出場ロボットの展示や実技解説を行い、参加中学生のみならず、広く県民に科学技術への理解を深めました。</p>
<p>科学体験フェスティバル in 徳島 実行委員会</p>	<p>平成9年の初開催から今年で19回目をむかえ、身近な素材を使った工作や環境やエネルギーに関する実験、iPS細胞の解説など、約50ブースを出展。第19回は来場者数約8,500名となっており、中四国では最大規模の科学イベントとなっています。平成23年度には文部科学大臣表彰を受賞しました。</p>